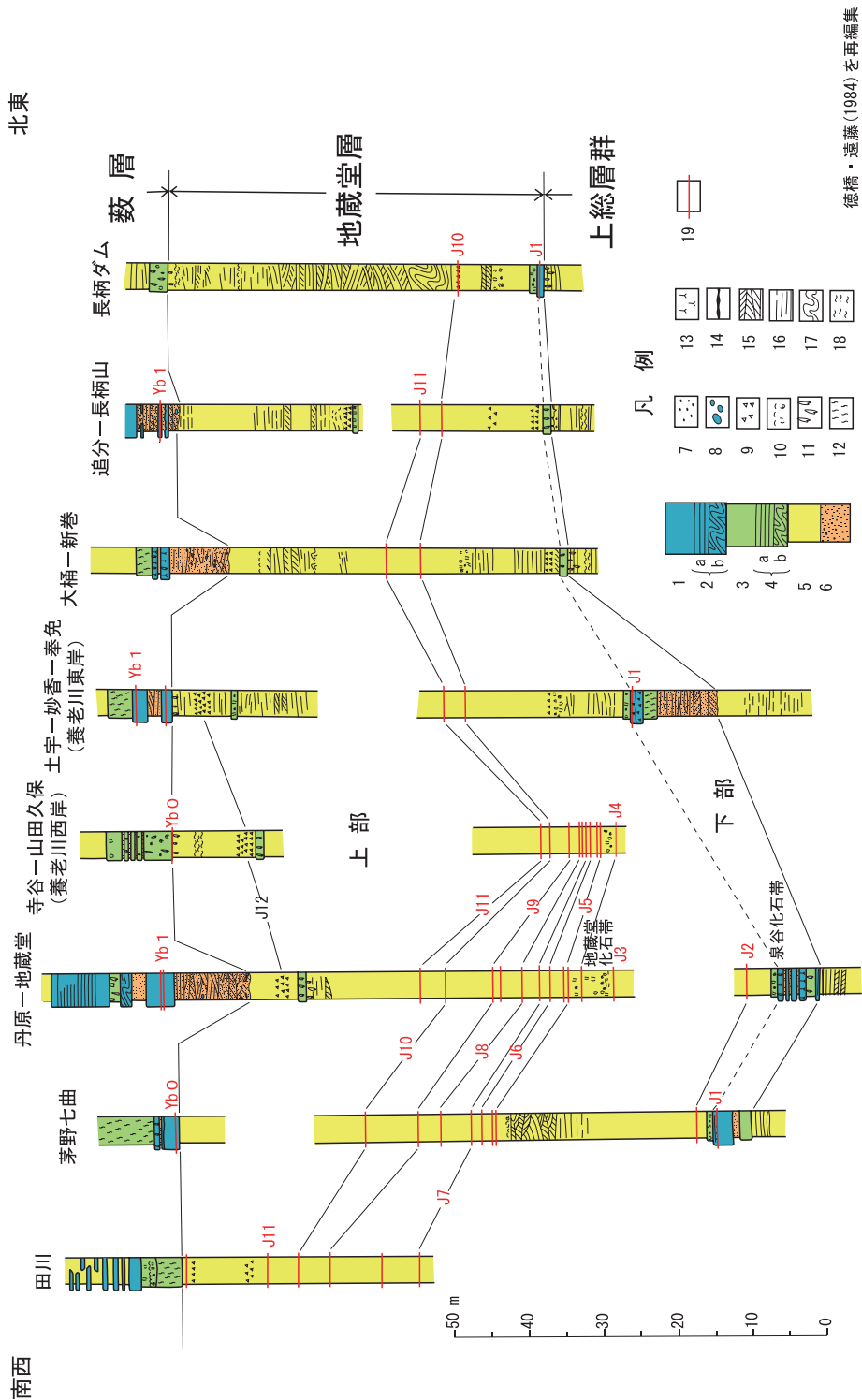


「姉崎」地域の下総層群地蔵堂層の柱状対比図

下総層群の個々の累層は、最上部の姉崎層と常総粘土を除くと、それぞれ泥質堆積物を主体に礫層や泥炭層を挟む下部と、砂質堆積物を主体にしば浅海成の貝化石を多産する上部から構成され、そのいずれもテフラ鍵層を挟み込んで広く対比される(口絵1参照)。ここでは、その一例として、下総層群下部の地蔵堂層の柱状対比図を示す。陸域～浅海域の環境で形成されたにもかかわらず、岩相境界面とテフラ鍵層面(同一時間面)がほぼ平行しているのは、柱状の配列する北東～南西方向が、堆積当時の海岸線とほぼ平行していたためと考えられる。1.粘土およびシルト層, 2.層状(縞状)粘土およびシルト層, 3.砂質泥層および泥質砂層, 4.層状(縞状)砂質泥層および泥質砂層, 5.中～細粒砂層, 6.含礫粗粒砂層, 7.古期岩礫, 8.シルト礫, 9.軽石, 10.貝化石, 11.砂管および泥管, 12.生痕(ハイオオターペーション), 13.植物根化石, 14.泥炭層, 15.斜交葉理, 16.平行葉理, 17.コンボルト葉理, 18.白斑状化石生痕, 19.テフラ鍵層。



徳橋・遠藤(1984)を再編集